

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 勝山市立勝山中部中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒911-0035

福井県勝山市郡町1丁目3-34

E-mail tyubutyu@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website http://www3.fukui-c.ed.jp/~k-tyuubu/htdocs/?page_id=13

幼児児童生徒数 男子105名 女子108名 合計213名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は学校教育目標「他人を愛し、自分を愛し、故郷を愛す」のもと、「他人を愛し、係わる生徒」「自分を愛し、高める生徒」「故郷を愛し、夢見る生徒」の育成を目指している。その中でESDをその実践の場と捉え、全校ESDのテーマとして「私たちの手で、私たちの学校から、私たちの地域を変えよう」を掲げ、豊かな心の育成を目指してきた。

具体的には「故郷を愛せるように、周囲への環境に関心を持ち、憧れる自分のイメージを夢見ること」を目標に①環境に係わる学習と②ふるさとに係わる学習を行った。ESDカレンダーを踏まえ、勝山中部校区でできるESDを中心にを行った。これらの学習を通して、ふるさとの環境を理解しその保全に努めようという意識を持たせ、ふるさとの良さを体験的に理解し、ふるさとに誇りを持ち、自分たちのふるさとを将来に残していこうという意識を持った生徒の育成を目指した。そして、持続可能な将来が実現できるような価値観を育成するとともに、行動の変革を促すように取り組んだ。

①環境に係わる学習

地域環境の保全の方法を多様な視点から見つめさせ、広い視野で環境問題に関心を持たせ、環境に対する課題意識を育てる活動を行ってきた。

【地域環境美化活動】

本校では清流のある町づくり、生物多様性の保護、地域環境の保全を有機的に関連させ、「地域環境美化活動」と銘打って持続発展教育を実践してきた。地域環境美化活動では、学年毎に学校周辺の自然環境に関心を持ち、美化活動に取り組んだ。1年生は自然環境に関心を持ち、後世に残すべき事や課題を見つけ、地域の清掃や草取りとゴミ収集を行い、課題等を発表した。2年生は校区内の公園の環境調査を行い、清掃美化と草取り、ゴミ収集、整備を行った。3年生は学校の前を流れる浄土寺川の環境調査と清掃に取り組んだ。10年以上前から生物多様性の保護の観点から蛍などの水生生物の生息する美しい環境作りに取り組んでいる。本校は学校の前を流れる浄土寺川清掃を中心とした「地域環境美化活動」を40年以上継続してきており、その伝統の中、環境に関する生徒の意識は年々高まっている。

【委員会活動】

5月3週目には、学年の枠を超えて、ボランティア委員会が中心となり、各部活動にも呼びかけ、地域行事である「クリーンアップ九頭竜川」に参加した。

年々参加する生徒の割合が増え、身近な環境を守っていこうという意識のさらなる向上が見受けられた。

【資源回収】

6月PTAが主催、8月には生徒会が主催し、資源回収再利用活動を行った。資源の有効利用を図ることを目的とし、資源回収を通して3Rの学習とゴミの分別を実践することができた。

【教科授業】

教科でも環境に関心を持たせるような工夫を取り入れた。例えば国語科では身近な自然の素晴らしさに触れ、詩を創作する活動を取り入れた。また、環境に関する論説文を読み、それに関係するデータをもとに意見文を書いた。

理科では、恐竜溪谷ふくい勝山ジオパークでの観察会を行ったり、福井県立恐竜博物館で化石・進化の学習を行ったりした。

環境学習では、全学年を通じて、地域の環境の実態を知り、自分たちが何をすべきかを考え、自分たちが行動していくという学習の流れができてきた。これからも学校と家庭と地域が協力し環境保全に努めていきたい。

②ふるさとに係わる学習

ふるさとの良さを体験的に理解し、ふるさとに誇りを持ち、自分たちのふるさとを将来に残していこうという意識を持った生徒の育成を目指した活動を行ってきた。

【各学年毎の取り組み】

1年生

遠足や宿泊体験を通し自然に触れ、今ある環境の素晴らしさと大切さを実感した。大野市街を散策し、ふるさと勝山との共通点や違いを見つけることで、勝山の良さや奥越のよさを発見した。学習したことをまとめ、学校祭で発表した。また、奥越高原青少年自然の家で宿泊体験学習を実施した。登山活動や野外炊爨などの活動を取り入れ、ふるさとの自然の尊さを体感できるようにし、ふるさとの自然の良さを壁新聞にまとめた。

「ようこそ先輩」では、ふるさとに誇りを持ち活動することの大切さを実感することをねらいとし、勝山市や福井県の先輩方の生き方や考え方を学んだ。

2年生

金沢市内を散策し、日本の伝統や文化を体験すると共に、ふるさとの大切さについて考えた。金沢ではグループで調べておいた、ふるさと勝山を紹介する英文を、ジェスチャーなどを交えながら外国人の方に伝える活動を行った。また、学習したことをまとめ、学校祭でプレゼンテーションを行った。

「14歳の挑戦」では、地域の方々の協力の下、三日間にわたり職業体験をおこなった。自分達のふるさとにある職場を体験し、自分たちのふるさとや将来について考え、プレゼンテーションを行った。

3年生

「修学旅行」では、人々との交流や調査・体験活動を通して、政治、経済、文化についての理解を深め、学ぶことや働くこと、生きること、ふるさとの尊さについて学んだ。事前学習において、ふるさと勝山と大都会東京のそれぞれの良さなどについて調べ、修学旅行に臨んだ。そして、東京について調べたことと実際の違いなどを級友とともに感じ取りながら、班別活動を行った。修学旅行後には、比較した結果やそれをもとに感じたことなどを修学旅行新聞にまとめた。学習したことは学校祭で劇にして発表した。

ふるさと学習発信では、「英語で勝山」「勝山劇」「勝山土産」「勝山かるた」のコース別に分かれ、ふるさとについて学んだことを発信した。

a 「英語で勝山」

インターネットを用い、リアルタイムでALTの海外にいる友人と交流し、「ふるさと勝山」の良さを紹介する。

b 「勝山劇」

ふるさと勝山の歴史や風土、観光資源などに注目し、未来に向けて大切にしていきたいという思いを劇にして発表する。

c 「勝山土産」

郷土料理を基にした新しい料理や土産を開発し、展示しようと試みる。ふるさとの味を大切にし、伝えていこうという思いを料理に託した。

d 「勝山かるた」

ふるさとの特産物、遺跡、遺産、風習をかるたにまとめ、幼稚園児と遊ぶ。遊びを通してふるさとの良さを幼児に伝えるため、全て平仮名で作成した。

○その他

「福井の希望」や「ふるさと福井の先人100人」「古典音読暗唱ノート」を活用し、福井県の地域の宝、伝統・文化、偉人など、ふるさと福井県の良さを知る学習を各学年で取り組んだ。

また、教科でもふるさとを授業の題材に取り入れた。例えば、美術科では「かつちやまみやげ」と題し、ふるさと勝山をアートで表現する活動に取り組んだ。



①の写真（地域環境美化活動）



①の写真（資源回収）



①の写真（福井県恐竜博物館での化石・進化学習）



②の写真（ようこそ先輩「勝山のためにできること」）



②の写真（美術科「かつちやま土産」）



②の写真（インターネットで海外の人に勝山を紹介）

(2) 活動の詳細

① 環境に係わる内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|--|---|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他 () | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名)

| |
|--|
| 文部科学省HP Imacocollabo ESD環境教育モデルプログラムガイドブック |
|--|

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め, 指導方法の工夫改善に努めているか。

学校教育目標「他人を愛し, 自分を愛し, 故郷を愛す」のもと, 「他人を愛し, 係わる生徒」「自分を愛し, 高める生徒」「故郷を愛し, 夢見る生徒」の育成を目指している。重点目標の一つに「故郷を愛せるように, 周囲の環境へ関心を持ち, 憧れる自分のイメージを夢見ることができる」としている。全校ESDのテーマとして「私たちの手で, 私たちの学校から, 私たちの地域を変えよう」を掲げ, ESDをその実践の場と捉えESDカレンダーを基に教科横断的に学んでいる。生徒の振り返りや教職員での評価を基に学習課題やESDカレンダーを見直ししながら改善するよう努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

長期休業を利用し現職教育を行い、教職員間で共通理解を図るためESDに関する研修を行っている。

- ・ ESDについての基本的な考え方や、本校のESDカレンダーと実践の確認
- ・ 勝山市教育委員会主催が主催するESD担当者会議で得た情報の紹介
- ・ 8月に金沢で行われた北信越ユネスコスクール交流会の参加報告
(資料紹介、各校の実践例や行ったスモールグループ討議の紹介)

授業や学校行事の中でも、ESDに関する発表の場を計画的に設け、家庭や地域の方々に公開している。それにより、ESDに関する取り組みに対する意識が向上している。また、学校だよりや学校のブログで学校の取り組みについて積極的に発信している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

内部評価では「授業や校外活動を通し、環境に対する課題意識を育てることができた」という項目について約9割の教師ができた(ほぼできた)と答えているが、一部事前学習や準備の不十分さもうかがえた。事前学習をしっかり行い、活動がさらに意義あるものにすることが今後の課題だと考える。また、学校関係者評価として生徒・保護者に対し行うアンケートからは、学校からの発信や学校公開を通し、保護者地域の方の理解は得られ連携もとれているが、生徒の回答からは地元についての意識をさらに高めていく必要性がうかがえる。「環境」や「ふるさと」をテーマとした活動を通し故郷愛を高めるために、生徒が地域の活動に参加できる機会に参加するとともに、学校がさらに家庭地域と連携しながら活動を行い、その中での意見を参考にしながら質の向上を図る必要があることがうかがえる。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

拠点校としての活動の発信は以下の方法で行ってきた。

- ・ 学校だよりやブログ、学校開放日の保護者の参観を通し、生徒の活動を知ってもらうことで、保護者や地域からの理解が得られた。
- ・ 勝山市での交流会や北信越ユネスコスクール交流会で活動報告を行い、情報交換をする中で、活動に対するアイデアを得たり、改善点を見つけることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ，大学，ESD活動支援センター，ESDコンソーシアムとの連携など）

8月には金沢大学国際基幹教育院が中心となり開催された「北信越ユネスコスクール交流会2017 in 金沢」に参加し，交流した。ESD・ユネスコスクールを巡る最新の動向について学んだ後，実践紹介やスモールグループ討議を行った。（中部地方ESD活動支援センターが共催し，ユネスコスクール支援大学間ネットワーク，ESD活動支援センター，北陸ESDコンソーシアム，信州ESDコンソーシアム，公益社団法人大学コンソーシアム石川が後援）金沢大学が主催するユネスコスクール交流会にはこれまでも参加している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

勝山市内の学校との交流会を通して，定期的に情報交換を行ってきた。勝山市は全ての小中学校がユネスコスクールに認定されており，交流会ではそれぞれの学校の取り組みについての情報交換が行われた。また，ユネスコスクール全国大会に参加した先生方からの資料提供や報告が行われた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について，特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

生徒自身，あるいは学校がESD活動の情報を発信することで，地域・保護者の関心が高まる。また，生徒にとって自分自身が地域を支える一員であるという自覚や自信も芽生える。学習課題に結びつくESDを進めることで，主体的・協同的な学習が成立する。

（3）平成30年度の活動計画

本校は学校教育目標「他人を愛し，自分を愛し，故郷を愛す」のもと，「他人を愛し，係わる生徒」「自分を愛し，高める生徒」「故郷を愛し，夢見る生徒」の育成を目指している。ESDをその実践の場と捉え，豊かな心の育成を目指してきた。

これまで「環境」と「ふるさと」を中心に活動を行っており，次年度もそれを継続していく。今年度の活動を振り返り，全体でユネスコスクールの活動に関して共通理解を深める。ESDカレンダーを見直し，活動のそれぞれが，持続可能な者会作りに向けどのような能力や態度を育成しようとしているのかを確認する。生徒の意識は高まっているものの，自身が課題を見つける部分での学習をしっかりと行う必要性が見られたので改善を図る。また，生徒自身が学び得たことを発表する機会を設け，学校だけでなく家庭や地域の方に見てもらうことで，家庭地域の理解と協力を得，連携しながら活動を進めていく。